

りしめて了へば、音は余り外へ出ないし人は居ないしで、僕のやうな氣ドリヤがよたくたと練習するにはもつて来いです。だんく指も動くやうになりさうで、簡単な曲と唄の伴奏ぐらいをいくつか物にしませう。先づ「乙女の祈り」は楽譜なしで弾ける程度になり、今度はシューマンの「トロメライ」にかかつてゐます。シューマンの「流浪の民」の伴奏をどこかで探して来ませう。唄はグリンカの「ひばり」の伴奏を終つて、今やシューベルトの「ぼだい樹」に一生懸命です。

九月二十九日(金)晴。

今日は風呂のある日なので、三ヶ月半ぶりに理髪店へ行きました。六月の半頃、警戒警報が出て地震のあつた日に、青山で刈つて以来の頭です。この辺の床屋は鼎村の床屋よりもつと田舎つぼく、汚く、わびしくて、おまけに不精床のあのじのやうなおやぢさんが、目下二畳敷ぐらいの防空地下室を掘つてゐた最中を呼んで来た所なので、上氣して息使ひもあらく、恐らく手もふるへてゐたかも知れないが、いづれにせよ、そのおやぢさんの汗くさいシャツのほひと、はあくつく息の臭ささとに閉口しながら、髪刈りと後のスソ刷りだけで金六十銭払つて解放されました。顔を刷ると忽ち五割の税がつくから、此の頃は一般に、先づ鬚を家で刷つてから床屋へ行き、それから風呂屋へ行つて頭を洗ふ、と云ふ段取りになつてゐるのです。

あなたの手紙No.3(廿六日夜)を拝受。疎開証明書を受取つたことは前便に書いたでせうね(廿七日付)。手術で大分御活躍ですね。あさちやんの仕事はきまりましたか。

この辺は星がきれいなので、子供の頃からのあこがれの望遠鏡がまた欲しくなりました。この頃精神生活はスランプで、原稿も進まないでゐます。かう云ふ精神的スランプは、ピアノをひいたり星を見たりするのにはいいのかも知れない。あなたの御手紙も間どほになりましたね。それだけ生活が充実しても来たのでせう。

九月三十日(土)曇。

此の間からなくしたと思つてゐた炭の通ひ帳が、ひよつこり洋服ダンスから出て来たので、朗らかにになりました。炭屋が駅の向ふ側で、どこか遠い所にあると云ふので、始終通ひ帳と台帳と異動表とを持ち歩いてゐたのに機会がなく、一週間ばかり前に気がついてみたら、なくなつてゐたのです。てつきりどこかで落したことと思ひ、台帳も何もかも一緒

だから、これはどうなることかと大分弱つてゐたのでした。早速炭屋へ手続きしておきました。今年は石炭やコーライトがあるので、炭は余りさうです。その中どこかで食べ物と交換することを考へてみませう（ガスナシなので年に八俵、今一俵分来てゐるので、あと七俵あります）。

都心へ出て本室へ寄り、昼食は「日光」でたべました。量は割合多いです（二円二十銭）。此の頃はメリケン粉もなくなつて雑炊ばかり、それもズイキと菜葉しかは入らない雑炊ですから、毎日一番つまらない食事が続くので、たまに栄養をとる必要があるのです。

十月一日（日）雨。

廿九日付のNo.4手紙拝受。病院勤務も忙しさうですね。バルザックが医者、弁護士、僧侶と云ふ仕事に特に注目したのは、さすがに卓見なのでせう。それらの職（僧侶は日本では別ですが）は、人間が最も卒直な姿で身をまかせて来るものであり、人間の生活（心理生活及び物質生活）を観察するのに最も好合（つご）のいい職なのでせう。あなたもいろんな患者を通じて、人間の生活、人間の感情、への洞察力をきたへることを心がけるといいと思ひます。部屋のモヨウがへ、一々大変ですね。僕が手伝つてあげられなくて。

「ブランテイション」の中の統計は、気にしなくてよろしい。数字は馴れないと中々ピンと来ないから。だが例へば表9などは重要です。アメリカの国民所得の内訳で、農業所得が一九二九年で全体の八・八％であるのに、金融所得は一〇・八％、云ひかへると利子所得（利子、配当その他）の方が、全人口の五分の二をしめる農民の勤労所得より大きいのです。そのことは一九三二年（恐慌最低年）でもつと著しい。即ちこの年には農業所得は金融所得の半分ぐらいしかなくなつた。収入の統計が多いが、之は日本人の収入と比較すると面白いでせう。弗と円とを等置（お）して大体生活水準が出ます。

だが第二章の第一、第二節はまだ本論ではないから、通読しておけばいいでせう。本論は第二章第三節、特に第四節以下です。そこへ早く行くといいでせう。

ダイヤモンド日報の（5）を同封します。

小包御送り下さつたさうで有難う。黒モンペなら、早川君とこへ行く時でもはいて行けるでせう。松茸よりオサツが二、三本は入れればよかつたのに。だが慾を出すのはよませせう。御親切を感謝します。では又。

謙

## 幸子から謙一あて（一九四四年一〇月三日の記、四日の消印）※

一日の夜はすばらしいお月夜

たつぷりした水の様にあふれ流れ、万物を浸す月光。ドイツローマン派の月光病とかも、すこしはわかる様な気がする。大宮島もテニヤンも、床屋のお婆アさんの熱誠こめた祈願の甲斐もなく、宙に迷った若い人々の魂が、此の美しい月光の中を生れた町や村へ矢の様な早さで飛んで来るでせう。何かの小説に出て来たマルセルと云ふフランスの絵描さんが、大戦から帰つてこの方書いたと云ふ戦争の絵の事を思ひ浮べ、私も今夜の気持を線に表現したいと思ひました。但し、私の場合はローランサンよりまだ甘い絵になるでせう。

月光に浸された丘陵を眺めてゐると、何か胸迫るものがあり、原語で知つてゐたならば、高潮した感情でホキットマンの詩を（ゆりやまぬゆりかごの）暗誦したい思ひがします。こんな気持が続けばよいと思つたのに、忽ち線香花火の如く消えてしまひました。どうも関西旅行この方、気持はスランプ状態に落ちいつてゐます。久々の旅行や、めずらしく立てこんで人の来た事、病院勤務などで動揺したのでせうか。オプローモフ主義の毎日で、殆んど積極性がありません。十月二日夜、ダイヤモンド日報及2の手紙落手。

三浦さん、何とお気の毒な方でせう。何とはかない生涯だつたでせう。でも、あの方が若干の友達に与へた印象は深いものでせうね。あんなに謙そんな魂も、現在の世の中にあつたのですね。種々不足に思ふ心はずかしい次第です。

お手紙中にあるがんばり粉とやらは、一体何が主体ですか。メリケン粉はせいぜい補給つける様に致しますから、あまり妙なものを食べぬ様にして下さい。このごろ得体の知れぬ病氣（?）、生理的<sup>生理</sup>原象多く、医者にもわからないのが多く、原因は定期的な栄養補給の欠けたためや、あいまいな食物のためらしいです。それは除々に、なしくずしに健康をむしばんでゆく様です。昨日、メリケン粉、とりあへず200G送りました。一諸に白米三合程とスカートポテトを入れましたが、重さから一目で怪しまれるので、又とり出しました。どうも輸送が不合理で残念。

紙芝居を又買つておいて下さった由、あれは大さうよろこばれますが、高いものですから、度々下さつては恐縮だと云つてゐます。

日本橋へ出る次手があつたら、「ひき茶」を一つつみ買つて下さい。外には何も必要ありません。むろんネックレス

など。小包みの紙がたまつてゐたら、使へ相なのをすこし一諸によこして下さい。再使用出来相なのがなければかまひません。又二、三日、手紙を書きませんで、心配(?)なすつたでせうが、どうもあまり明朗でないので、ろくな手紙も書け相もなく、やめたのです。

経堂の此の頃の朝夕はすばらしく楽しさうですね。家が相当広くて、脊の高い樹のあるのは、実にいいものです。広い丈夫相な書齋と、心落ちつき相な寝室と、狭くて合理的な台所のある家で、くぬぎとかけやき、マルメロの木のある自分の家があつたら理想的です。そんな家で落葉の音のする様な秋の日を楽しみたいのです。

うす田嬢から梨を貰つたとか、お気の毒ね、何もあの方にあげるものがないでせう。梨も林ごもチョコク〜はいるけれど、送れないし、松茸も時々貰ふけれど、小包みは四、五日かかるからわるくなつてしまふ。肉屋からすこし大量に肉が買へる時、牛肉の佃煮を作りますから、そんな時わけてあげて下さればいいでせう。なる丈、女の子からは物を貰はない方がいいでせう。相手が女の人だと、何かとうるさい事の原因になりますからね。あげるのはかまはないけれど、貰ふのはうるさいのです。これは私の会社生活の経験です。

今日は20年位前からの気の変な村上半ザエモンと云ふ患者が来しました。尤も今は患者ではありません。大親分でアル中で脳の神経中枢が変で、一時々、一年に一度位、お父さんを訪ねて来ます。今日は殺したての山羊の Meat を持つて来てくれました。何となく気の毒みたいな、おかしい様な、きみのわるい人ですが、名前は下伊那一円にうれてゐる相です。

此の頃はヤケにうみのたまつた患者が多く、切つたり、まき換の度にムン〜にほつてかなひません。朝の中のリエスの三人は、三人ともノウボン一杯程も出るので、未だにほひが残つてゐます。一人のロク骨リエスの女の人は(世五才)、病気のため離遠され、着のみ着のまゝ、実家に帰つてゐる人で、家は兄の代で気兼ねし乍ら、此の四月から通つてゐます。又々ノウが出るので、今日ゾンデ(さぐり)をいれましたら、第二骨がくさり初めて居るので、二、三日中に又手術をする事になりました。気の弱い人で、みるも気の毒です。あと二人は少年です。一人は此の前書いたひぎの逆になつた子、一人はもう十年もひぎのカリエス(骨随炎)です。カリエスにはなりたくないものです。たいていは十年も廿年もかかり、半分は体力消耗で死にますから。痛くて、くさくて、不自由で、年中熱つばいのです。世五才の女の人は亭主が酔つてつけたのが原因だ相です。そんな亭主は刑務所へいれ〜ばよいと思ふわ。

十月十五、六日の定休日には大鹿方面か遠山かにゆきます。栗が一杯ある相ですから。両方とも一晚泊り位になるでせ

う。今年こそ信州の秋をたつぶり味ひませう。

尼崎のあき子さんから手紙が来ました。大島さんは出発した相で、九月十日ころ、又豊橋に来たとのことでした。わびしく、手紙をまち乍ら、子供とすごしてゐるとのこと、一お気の毒です。兄さんは勝手に使つてよこさずゐて、勝手によい時利用する丈だと、すこし怒つてゐる様です。さう云はれるのも当然です。

和歌山のお父さんはロクカン神経痛で、見ちがへる程やせたとのことですから、あなたも手紙を出して下さい。私はお父さんから養生法を精しくきいて手紙を出しますから。尼ヶ崎の病院はまだあのまゝの様です。子供の食べ物がなくつて困ると云つてゐました。粉とか白米とか少々送らうと思ひます。

プランテーションは目下第二節の終りごろです。どうも統計をみるのが六<sup>ママ</sup>かしくて困ります。大体数字に不得手の私ですから、あまりズラリとならんでゐると悲鳴をあげます。見ても見ないと同然で、理解のたすけになりません。どう云ふ風に見るのかさへわかりません。数字があると、よむのも嫌になります。遂<sup>ママ</sup>憶<sup>ママ</sup>くうになつて、あとでくくと云ふ事になります。し方なく、お義理にみでは間間の本文の活字へはいつて、オアシスをみつけた如くホツとしてゐます。

此のごろのあなたの手紙、どうもおざなり式で、よんでもよんだと云ふ満足感がしません。従つて、まつ楽しみも裏切られてしまひます。尤も私だつて、いい手紙を必ずしも書いてゐるものではありませんが。

二日夜は八時から関口さん訪問の帰途、別府、南ノ条方面へ、月光の中を一時間散歩しました。うれた稲のほひや月の光、静まつた山々の中を歩き、ジャン・クリストフを思ひ浮べました。そしてアンネットは—アンネットへはすこしづつ反感<sup>ママ</sup>みたいなのが湧いて来ました。不思議<sup>ママ</sup>です。

三日午後

ではさようなら。

近所から応召した人(廿二、三才)は昔、結核性腹まく炎をやつたので、一週間目に帰されました。

※一〇月三日付け(四日消印)の封筒には中身がなく、後掲の一〇月四日記の手紙文が入った封筒中に、あわせて三日記の手紙文も挿入されていた。本来は三日付け封筒の中にあつた三日記の手紙文が、なんらかの事情により、四日記の手紙の封筒の中に紛れ込んだものと考えられるので、ここでは元に戻した形で掲載した。

## 謙一から幸子あて（一九四四年一〇月二〜三日の記）

十月二日（月）雨、曇。

寒いくらい涼しい、この二、三日の天気です。

今日はモンペとナシやまつだけ、その他を拝受。いつも乍ら御親切をしく感謝します。モンペ早速はいてみましたが、中々よろしい。大分タップリしてゐるので、之なら下へいろくはけるし、あたたかいでせう。昨夜、早川君とこへ行つた電車の中では、ジャンパーとシャツだけでは首すじがさむい程、めつきり秋になりました。松茸は幸ひ腐らずについたので、早速今夕、ごはんへ煮込んで秋の味をあげはひました。ナシは夜、食後にたべました。

今日は電話やら訪問客やらで忙しい日でした。と云ふのは明日、戦争史の集りがあるからです。まるで僕は債鬼の如くあらはれてゐるのです。僕自身、実は自分の原稿も完成してゐないので、別段強いことは云はないのですが。その代り明日は、皆の分の弁解を一人で引受けて、大分奮斗せねばならぬでせう。

今日から二階へ、もう一人新しい女の子が来ました。五尺四寸以上ある背丈の高い子でヒヨロ長さんです。この分室では恐らく僕の次ぐらいでせう。聖学院を去年出て、「友の会」の学校（元の自由学園にあるもの）を今年出たのださうで、彼女の聖学院時代の歴史の満田君と云ふのは、僕と同期でコチくのクリスチャンだったが、きいてみると、彼女（ミス古田）達とケンカして、結局生徒に追ひ出された形で、どこかへかはつたとのことでした。古田君は滝野川の中里町に元居たのださうで、田端荘は知つてるさうです。すぐそばだと云つてゐます。之で二階も満員です。

十月三日（火）晴。

昨夜からドン／＼と何か大砲でもうつやうな、ガラス戸にズシンとひびく音が聞こえ始め、夜中鳴つてゐたのですが、今朝になつて、お祭の太鼓だったことがわかりました。この辺は九月下旬から順ぐりに秋祭で、昨夜サツマあげ二個の配給があつたのは、実はお祭の景品だったのださうです。祭の太鼓さへすなほには聴けない時局です。

今朝は大分ごちさうがありました。雑炊はズイキの外に豆、シヒタケ、ジャガが入り、久しぶりにみそを入れ、おかずは柿の皮の煮汁と醤油とで、サツマあげ、マツダケ、ピーマンの煮物をつくり、小松菜のおひたし（ソースで食べる）、

之だけです。おかずを別に作ったのは全く久しぶりの感じですが。柿の皮の煮汁はすっかり味をしました。柿は庭の小さい柿ですが甘いのです。僕と小使さんと女豪傑の足立嬢とが専らとつて食べます。僕のとつた分は半分は臼田嬢に食べさせます。結局早く出て来る女の子が、泊りこみの僕と同様役得に食べるわけです。

最近有楽町の駅で、誰かから駅長室へ寄附された柿の枝を、挿花のかはりに改札の所かどこかへ飾つた所が、子供がほしがつてお母さんにせびつたり、大の男連も食べたがつたりの悲喜劇があつて、新聞に「あれはやめて下さい」と云ふ女性の投書がのりました。

此の頃の東京人の配給食糧は千三百カロリーで、「絶対安静に必要な」量なんださうです。その話が出て皆大笑ひしたので、僕は「笑つちや絶対安静ならんよ」と云つて制したら、松村君と云ふのが早速ノートへ書き込みました。この人は僕の話を目記へよく書きつけてゐるんださうです。小説家志望なんださうだが、僕の駄弁には相当材料があるのださうで、大分前からやつてゐたのだと云ふことです。さうきけば僕もうかつにしゃべれないので、弱り始めました。

今日は本室の会議へ出るために九時半に経堂を出ました。お手紙No.5(30日)は道で読みました。手術のことはどんく書いて下さい。あなたの生活に興味のあることは遠慮なく書いて下さい。僕はあなたの生活を貪慾に読みとり、また僕の生活をうんと読みとつてほしいのですから。

僕は今「脳の話」(平沢興)を読んでゐます。早川君の所でみつけて借りて来たのです。之はパウロフを読む準備です。パウロフは人間の認識機能、その発生と発展を知るためにどうしても必要であり、従つて僕の歴史学に必要なのです。レインの心理学やケラーの類人猿等も、それと聯関して必要です。早川君の所で勉強してゐる数学も、間もなく再びはじめようとしてゐる天文学も、凡て僕の歴史学に必要なのです。太陽系の発生、有機物の発生、生命の発生、動物の進化、人間の発祥、人間の認識の発生、かくして歴史学になるのです。あなたが手術に常に参加するなら、生理学の本を読むといいと思ひます。生活と結びついた読書、之が読書の原則です。

あなたに僕の「ブランティション」を読んで貰ひたかつたのは、それが僕の著述であり、従つて二人の生活の生産物であつたからです。あなたのそばにゐる、あなたに最も近い人間が、あなたのそばで苦しみ乍ら書いたもの、これはあなたにとつても、いはば自分の生活を読むことだと云へるでせう。「ブランティション」の広告が読書新聞に出たので、著作届けを調査会へ出しました。すでに先月半頃にもどこかに出たらしく、ぼつ／＼問合せせやお祝ひの言葉も来始めてゐた所です。



お午からの会議には、今井先生以下十人が出ました。原稿は半分集つたわけで、之から人の原稿を審査するので忙しくなるでせう。会議は三時前に終つたけれど、帰りに洗濯屋でワイシャツを受取り、斎藤さんでカンヅメを受取り、沢田君の元の家へ寄つたら、彼のお母さんがゐて、彼は朝日新聞に入社したばかりで帰りが夜になると云ふので、玄関の立話だけで、林檎をポケットにねぢこまれて、五時半頃帰りました。沢田君から、夜、電話がかかつて、富山から長い手紙を原宿へ、この六月に出したけれど、返事がなかつたので、応召かしらと思つてゐたのだとききました。日曜頃遊びに来るでせう。

ダイヤモンド日報のNo. 7を送ります。No. 6は送つたでせうね。何だか送つたつもりだが、一部多いので一緒に同封ませう。之はたしかに雑パクで、出来は甚だ悪い。だが、今度の本の内容を通俗的に大体説明してゐるものと思つて読んで下さい。之は不出来だから五部しか貰つてゐなく、一部はあなた、一部は早川君、一部は森井さん、一部は竹中君、そして一部はここに、とこんな風にしかわけません。

読書新聞の僕の本の広告は、「農業欄」のトップに出ました。「経済」かと思つてゐたのですが、農業問題として扱はれる方が、検閲などにはいいかも知れません。所が偶然、僕の本の次に、横山敏男君の「満洲水稻耕作」か何かの、之こそ専門の農業書の広告が出てゐるので、妙な気がしました。本の大きさは僕のが四七〇頁、彼のが四五〇頁、値段は僕のが税なしで六円、彼のが四円五十銭。出版社は彼のは河出書店です。

十月三日夜

謙一

### 謙一から幸子あて（一九四四年一〇月四〜五日の記）

十月四日（水）雨。

霖雨が続いて、しめつぽくいやな毎日です。雨のおかげで今日は馴染の農家二軒ともことわられ、てぶらで帰つて来ました。

午後は原宿の八百屋（内藤）さんへ、疎開荷物の最後の分（七月末、経堂へ引き上げる時頼んだもの）のお金を払つて来ました。之は証明書がないと中々出してもらへず、町会ではヒロチャンが下宿を引き上げるのにも証明書を出しし



つたくらいで、その後あなたから疎開証明書を送り返してもらつて持つて行つたが、之もいけない（此の頃は一部疎開は荷物二十個以内）。一ヶ月もぐずぐずしてゐる中に内藤さんに徴用が来て、五日に芝浦の工場へは入ることになつたので、そのことを理由に、闇値でやつと新宿の運送部で引き受けさせたのです。結局六個で五十五円也かかりました。内藤さんもそのおかみさんも、行く度に「奥さんいかがですか」と云つてくれます。

帰りに小田急の駅の白木屋で、「沖うど」と称する、コンニャクのやうな、ウイロウのやうな、ゼリーのやうな食べ物一個四〇錢也で経木に包んで売つてゐたので、買つて帰りました。味のないものだが、ソースで食べると若干うまい感じのする瞬間もあつた。

「脳の話」は実に面白い。大脳皮質（思考中枢その他のある所）の作用が、間脳の所謂生命神経系の中枢に対して働き、精神作用が肉体の生理的条件に実に大きい関係をもつてゐると云ふことの科学的説明を得ましたが、精神的に豊富な偉大な人間が、その表情なり顔貌なりの一種の美しさをもつこと、とりこし苦勞や愚痴や神経質が、いかに生理的諸機能を弱らせ阻害するかと云ふこと、大脳皮質の働きを間脳中枢の働きへ余り密接にならせることは、人間を卑少（下）にし生命の浪費になり早死にさせると云ふこと、従つて修養によつて小事に神経的に拘泥せず、一つ一つの現実を現実として科学的に受け入れ判断し、不要な停滞や迷ひを去ることの必要さ、之等が大脳生理学から結論出来ます。聖人が、今から考へて全く不十分な栄養しかとらずに、普通人より長命したことの理由は、一つには「悟り」によつて末梢的現実へ神経をつかはなかつたこと、即ち大脳皮質の機能をして間脳中枢の機能の自然的作用を阻害させなかつたこと、之にあると云ふのです。

十月五日（木）雨。

今日は貴重な「薬品」を受取りました。どうも有難うございます。丁度今、サトウ、ミソ、その他粉類（ガンバリ粉とか、ココアとか）があるので、おいしいむしパンが出来るでせう。数日ぶりです。

ダイヤモンド日報8、9号を送ります。あと二号でおしまひ。

今日は午後本室へ血液型検査に出かけます。あとは帰つてから書きませう。

## 幸子から謙一あて（一九四四年一〇月四日の消印）

「南部問題解剖」5までよみました。

前の手紙で粗雑だとわる口を云ひましたが、あれはこちらの読み方の粗雑と変更致します。今日までのところ大づかみ乍ら中々面白い問題で、急所を衝いてゐると思ひました。大本営発表も抽象的に鬼畜米英などから文句云つたり、妙なまん面を描くよりは、①をそのまゝ借用した方が有巧うづかです。但し、さうすると「米英」に対する全国民をひつくるめでのにくしみは、米英のある者へのにくしみに代るかも知れない。

戦争この方、外電のランに黒人と軍隊の市街戦、暴動の記事をチョイ／＼見ましたが、それがアメリカの癩のあらはれだとは思ひませんでした。ましてや、それが（人種問題）戦争のひき起した経済的な国内矛盾、労働問題と密接な聯ケイあるもの、とまで考へた事はありません。

軍人投標（標）権、人頭税など、皆初耳（？初目）です。あなたのアメリカ史を読んでゐた時も、人頭税なる言葉にぶつかつて、人夫頭の税金の事かな位に思つたものでした。「軍人投標権」のこと、一すると今まで兵士を構成する人々（多分農民、労働者）は選挙権はなかつたのか、なかつたとすると軍が戦争をチャンスに軍の力を政治的に發揮しようとしてゐるのか、それとも戦つた兵自身の内部からの要求なのですか。いまでもアメリカの兵制は志願兵なのですか。すると軍人の給料は職工や農夫よりもよいのか。

「人種問題と労働争議」の件でも、どんな風につて来るのか、一から十まで私は知りませんので、わからない事だらけです。アメリカ人労働者の中でも、人種の偏見に左右されてゐる者の方が庄（と）とう的でせう。で、軍需工場に戦争を原因として移動して行つた黒人側から、平等、公平の待遇の要求が出てゆくのが当然でせうが、労働組合内の労働者たちは、それに対しどんな態度であつたのか。アメリカ人労働者が黒人の不平をチャンスに、自分たちの要求を台流させて、黒人をストライキに利用したのか。

③「食糧助成金政策」も具体的内容を知らず、けれども農業資本家やプランターたちが反対してゐると云ふからには、多少わかる様にも思ひます。軍人投標権もニューデイルも食糧助成政策などの失敗も、大づかみに云へば、フィレンツェの昔からの富めるクラスと貧しきクラスとの争ひで、政権に係ある富めるクラスの常（と）とう手段にまかされたのです

ね。

「軍人投標権」では、長期議会の時の軍人委員会の事を想起しました。クロムウエルや其の他の將軍連の兵士に対して行つた行動や、下から盛り上りばく発する兵士の力、武器を持つ団体の力、そして上層部の將軍たちがタウンの有力者とひそかに結んで兵士を裏切つた事などを。

ニューデイルや助成金問題では、オランダを思ひました。ルーズベルトの出身党の分裂も、さもあるべき過程、歴史的必ゼンだと思はれます。

4.と5.をよむ時は、又しても長期議会の長老派と独立派の分裂や、自分たちのかかげたモットーを政権を握つたあかつきに、くもなく投げすてた長老派（国民全体の利益を自分たちの利益にすりかへた）を想ひ浮べました。人間は何時もくく同じ様な事をくり返してゐるんですね。アメリカの場合もつとく社会的に復雑で、歴史的段階も進んでゐるが、個人の利益ばかりを守るためには何物をも恥じぬ点だの、政権を握る人々が何時も人間らしい人間の行動に脊をむける事は同様です。

知らない事ばかり乍ら（きつと他の一般の人も、こんな問題は知つてゐないでせう）、恐ろしく興味をゆり動かされま

す。ていねいに読んだ人は、きつとアメリカの社会政策や南部の問題、ニグロの問題に興味を持つて来るでせう。

独逸語の自習書はそちらだつたかしら。アーヴェーツエーのよみ方位のかんたんなパンフレット式の本があつたら探して下さい。看護婦さん用に使ひますから、薬の名前や器械の名前がよめたり、病氣や脈などの医用の術語を理解するに足る程度、一名詞がよめる程度のものでよいのです。

五、午後

幸子

### 幸子から謙一あて（一九四四年一〇月四日の記）※

十月一日附No.3手紙落手。ダイヤモンド日報も。

日報の原稿はまだつづきますか。切つて紙にはつて表紙をつけてとちておきます。プランテーションの初稿もマロンのリボンで一章づつ結んで（二枚に折つて）とちてありますので、ね床で楽に読めます。今日の手紙であまり数字を気にしなくとも良いとのことですから、安心して次へ進みませう。南部問題解部は午後に通読して感想を述べませう。

ピアノの練習をしてゐる相で中々いいですこと。うまくなつたら女の人たちに合唱して貰つて伴奏をつとめてごらん下さい。きつと皆歌をうたひたがつてゐるにちがひないから、よろこばれるでせう。事務所であつた女学校を出た人たちは、卒業してからはな歌は歌つても、ちゃんとして歌へないのが詰らない、と始終誰も彼も云つてゐました。おひる休みなんかやつたら、午後の仕事の能率が上るでせう。

あなたもスランプの由、どうりで此の頃の手紙は何処へ行つたとか、どうしたとかの事は書いてあつても、心情生活はヘンリンも出てゐないなと思つてゐました。無理にお書き下さらなくても結構です。スランプの原因はわかつてゐるんでせうね。

松茸よりおさつがよいとか、今度はさうしませう。

病院の仕事はたいした事はありません。血とうみとよごれたガーゼとメスの音丈です。苦痛に対する人々の各々の態度は千態万化で、その人の人生に対する精神の態度をある程度表現するものです。精神のイージイゴイングな生活をしてゐる様な人は、たいていみつともない程苦痛に恐怖を持つ。積極的な人や、ある信念をいく分でも持つてゐる人は、その程度に立派です。老若幼少男女をみましたが、一番恐れず即座に手術を諾ふ人は、若い働いてゐる女です。中年の女の人と男は一番ビクビクしてゐる様で、苦痛に大げさな反応を示します。

今までみたく一諸のところに来て同程度の指の化膿の患者の二人のうち、来た日につめをはがして切開する事を承諾して、ノボカインの注射もぢつとしてゐて、自分の親指のつめをこんな形のもの（手術用具のごく簡単な図があるが省略―編者注）で起して、はさみで肉とつめの間を切りとるのを、ぢつとみてゐた娘は二十才の天竜社の女工さんでした。彼女の傷は五日目の今日なをりました。一言も痛いと云ひませんでした。幾分顔が蒼ざめた位です。もう一人は四十五、六才の店の主人、これは切らずにやつてくれやつてくれと云ふので、其の様にしてゐましたら、今日はコールド・クリイム

の瓶程も指が太く化膿し切つて、発熱<sup>39</sup>にもなり、とうとう切りました。娘さんの方は腰かけたまゝ、こんな格好で手術しましたが、男の人はね台に横になり、おかみさんに片一方の手を力一杯にぎつて貰ひ、注射からして大ききわぎでうなり叫ぶ、で私たち見習ひ一回で足や腰まで押へると云ふシユウ体<sup>⑤</sup>でありました。

もう一人の女学生（さつききいたら、女学生でなくて、対童社と云ふ工場の女工でした）も中指のつめの切開、これは注射の針がつきささらず二本も折れる程で、従つて三本目は相





当深くぐざりとささつたにもかゝらず、一言も云ひませんでした。終るまでちつとみつめて  
ゐました。

若い男で、馬にけられた百姓は、鼻も口も歯もふきとんで、来た時は二目に見られぬ様子で  
したが、この人もきつくてウンとも云ひませんでした。もうすつかりなをつて、鼻の形もあたり  
前位、さけた口びるも目立ちません。馬と云へば十才位の子供の、馬にふまれて足の甲のつぶ  
れた子、牛にふまれて指のつぶれた子が来てゐます。

地方病の様なので多いのは（一年に百二十人位）、ホーヂョーキンとか云ふ、雑草に着いてゐるキンのはいつた人が、  
方々に妙な肉腫が出来る患者です。道ばたの草の葉をなめたり、くきで歯をほじるくせのある人に多いのです。今来て  
ゐるのは四十台の百姓のおかみさんで、首に出来て、首はこんな風に腫れて、ゾンデをいれると二寸もはいりこみます。  
切開した口を指で両方から押すと、赤く色をつけたリンゴヂヤムの如きものが何杯もくも出て来て、中々なをりませ  
ん。私もちよいく路の草の細いくきで歯をほちつたり、かんだりする癖があるので恐くなりました。下伊那に多いの  
ですつて。

朝ちゃんの就職はまだ決定しません。履歴をみて「得難き人」とのこと、履歴書は県庁まで行つてしまつたのです。  
県の属になるのかも知れません。なる丈いろんな点でユーリな方へまはすとかでおくれてゐるのです。

森男は陸軍病院に入院してゐます。痔の手術らしい。

では今日はこれでさようなら。

十月五日

謙一様

幸子

※この手紙の文末には「十月五日」と明記されており、封筒の裏面にも一〇月五日付けとある。しかし次の幸子発七日消印の封筒中の手紙  
（四日夜の記）には、「今日はこれで三通目」と記されており、同封の六日記の手紙では、「日附を一日まちがつて、四日の日を五日だと」誤  
記した旨ことわっている。以上から、この手紙と前回四日消印の手紙、および次の四日夜記の手紙の三通を、一〇月四日に認めたものと推  
測できるであろう。一〇月五日付けの手紙に、あえて「一〇月四日の記」と題したゆえんである。

## 幸子から謙一あて（一九四四年一〇月四、六日の記、七日の消印）

十月四（五に×を付し、その脇に四と記入―編者注）日夜。

午後、嬰兒兎唇手術がありました。生後十二日目、赤ン坊はますいをかけるのと死ぬので注射も何もなし。泣いてかわい相です。お父さんは二分位もないはなの下のみぞを切ったり縫ったりで大汗、開腹手術より骨を折ります。赤チャンが泣く毎に「ああ、失敬、失敬、ちよいいとです。ちよいいとです」と断りますからおかしい。ガーゼをあててこんな風（簡易な図は省略―編者注）にばんそう膏をはります。その時ひきつれる方の鼻孔には、少さいつま楊子型にガーゼを丸めてはさみます。何故かと思つたら、鼻の孔の格好がわるくなるからなんだ相です。

先日浪合に行つた時の死んで捨てられた赤ン坊の件、今日西沢婦人科医が兎唇の赤チャンについて来ましましたのできゝましました。20才になる娘で、9ヶ月目に浪合に名古屋から帰つて来たさうで、それまで工場につとめてゐた相で、家でも知らなかつたらしく、夜中に産気づいたので、家からこつそり抜け出して山の畑の中でお産をして、一たん畑の中に埋めたものゝ、発見を恐れて河へ投じたとのこと。其の朝普通通り、出征兵士を送りに行つてゐた相です。

犯人は浪合にゐる狂人の女だらうと警防団でとり押へて、一日、うつたりなぐつたりして、白状させ様としたがらちあかず、身体を調べたら出産した様子もないので、別に探す事になつて、私たちの帰る前日にその娘がつかまつて、手数をかけたとして散々なぐられて、そうして西沢さんが産科の医者だから、身体を調べにいつてゐたんだ相です。其の後の話は看護婦さんからきくと、十八年の刑で、姉の出産の手伝ひに行つた折、義兄がむりに子供を作る様な事をしたのだ相です。で、義兄はすぐ出征したので、相談相手もなく姉にも云へずで、苦しんだのでせう。それにしてもそんな事情の女の人が、一十八年の刑なんて長すぎる。お父さんも二、三年位でよいぢやないかと云つてゐます。お母さんなど其の話を聞くと顔色を変へて、其の義兄こそ刑務所へやるべきだと大フンガイです。

彼女は出産までもどんなに苦しんだでせう。まして産気づいてからの恐怖、考へただけで気の毒で、かわい相で涙がこぼれます。さうして其の後も何事もないふりをしなくてはならないから、健康体の如く行動したのでせう。どんなに悲しく恐ろしくあつた事でせう。そんな身体をうつたりなぐつたりされては、刑を云ひ渡されて独房にゐて、精神的にも両方で死んでしまふのではないかしら。彼女の罰はそれまでの苦しみでつぐなはれてゐます。又、其の姉の心情もきの

毒な事です。出征してゐる義兄とかは、知つたら、どうしてその悪をつぐなふかしら。さうして社会は彼には制哉（原）を加へないのかしら。

今日はこれで三通目だから、これでおしまひ。

十月六日。

日附を一日まちがつて、四日の日を五日だと思ひ、順ぐりに一日づつちがつてゐました。今日は朝から淋しい雨と野分の吹きすさみ、目の中が風が滲みこむと痛い様な感じがします。庭のコスモスも咲き残つたカンナも風に揺れ、いろんな落葉が硝子に舞ひ当りカタコトと音を立て、ピユーツと声を立てて風が吹きこんで来ます。

朝の掃除のあと、病院が始まるまで、アパシヨナタをききました。こんな日は実にレコオドにふさはしい。

午前中は何時も通り。午後から盲腸炎と、前便の首の腫物の切開の二ツ。盲腸は廿五才の既婚夫人、つきそひは若い夫。虫様突起が探し出せず、十五分もお腹の中を探ぐりまはりました。後で看護婦さんに随分長く探したのねと云つたら、長い時はこちらの先生は二時間位も探す事があり、三十分から一時間はざらだ相です。他の先生方は十五分以上探す様な事はない。それ以上かかり相だと、一たん止めて縫合して、又痛くなつた時に改めて切開する。だから手術と云つても患部をとり去らぬ手術もあつて、二度目の切開をせぬ中に破れて、腹膜炎を起して死ぬ事もチヨイ／＼ある。二時間も先生が探す時は、私たちも汗びつしよりになるが、先生は全身汗みづくになる。だから下伊那の看護婦会の人たちは、盲腸の時は石井先生にやつてもらふと皆云つて居ります、と云ひました。＼それにこちらの先生は切つて見て、腸の色がまつくろに変つてゐてくさい様な時、私たちが見てももう駄目だと思ふときも、全部わるいところは切つて、きれいなところをぬひ合はせ、カンフルもリンゲルも全部うつ。他所の先生なら、今の様な注射薬やガーゼや、いろいろの材料払いての時は、あんな事は絶対しない。だから患者の家の人々は、そんなにまでしておくれんでもいいと云つたり、これ程までにして戴いて駄目ならあきらめられます、と云ひますに。＼と話してくれました。手術の場合は医者（原）の個性は出るものですね。

又、アシスタントも多（原）に個性を出します。見習は私とふうちゃん（原）と、新しい大倉嬢の三人です。古い二人は『手を洗ひ』本当の助手をつとめます。で、あとの新米三人の手術の時の動きで、勝気やまけん気や、出しやばりや、スタンドプレイ的モーションをやる人や、実にさまざま。私は此の中のどれにはいると思つて？



実是不思議(義)な事に、どれにも属しませんの。案外平凡にちつとみてゐる方です。さうして皆のし残した事や、機械の後片附(タテ)が主です。自分でも驚きました。尤もそれもけんそんならよりも、動くのがめんどう(タメ)と云ふ事も多いに關係します。今夜は常会があつて、お母さんが出席して来ました。何だか貯金やらいろんなものを書き出すらしいんですが、お父さんもお母さんもふーちやんも、そろつて頭をひねくつてゐるのに、何がどれでいくらなのか、一寸もわからぬらしいのであきました。貯金などにエンのない親子が、めずらしく必勝貯金だとか愛国貯金とか、貯金帳が出来たのであはてゐる光景で、さうでもないかうでもない(タメ)と云つて、結局一字も書きこめないんです。お父さんはしまひには「こんないろいろな作るがんイカンのだ」と怒り出す始末。おかしくなりました。

「プランテーション問題」いよく第四節、クロッパー制プランテーション農業へはいりました。

(一)「南北戦争によつて黒人奴隸制プランテーションは一応なくなつた筈であるにかかはらず、一九一〇のセンサスが、未だに昔のプランテーション中心地帯に、一寸形を変へた丈で、尚プランテーションの残つてゐる事を証明してゐる」。これ丈の説明では一寸わからない。どうしてセンサスがプランテーションの存続を証明してゐると云へるのか、よくわからない。

経営の零細化と縮少(タメ)プランテーションの存続と云ふ風にみるのでせうか。これも又、後でわかるのでせうね。

(二)一の疑問氷解いたしました。

精しく書かうと思つて七時から座りましたが、下痢で、今まで四回席を立ち、流石にフラ〜になりました。

今日は一まづ止めて、明日かきます。

十月六日夜

### 謙一から幸子あて（一九四四年一〇月五〜九日の記）

十月五日（木）雨。

午後、雨の中を本室へ血液型検査に出かけました。

誰は何型だらう、誰は何型にちがひないとか、まるで血液型がその人間の性格の決定的要因であるかのやうに予想や当てごつこをして、僕については、所謂知識労働に普通の型だと云はれるA型乃至AB型の予想が一般的でしたが、思ひが

けずO型でした。O型と云ふと実行型で軍人などに多く、単純豪放云々の性格が多いのださうですね。道理で机の前で読んだり書いたり、物事を論理的に処理することなどが苦手すぎると思つてゐた。本田さん（彼自身はA型）は却つてはめてくれました。「成程君はO型だらうな、O型と云ふと所謂胆汁質に相当するんだらう、判断が早くて忠が強靱な型だよ。」「だけど僕は可成り優柔不斷で、実行型と正反対だと思つてるんだがな。」「いや実行型だよ、君は。さうだらう。今さうでないやうに見えるのは時勢のせいだね。それに実行と云ふのは、精神的実践も含まれるんだ。……」所が僕自身で思ひあたることは、いろんなことがやりつばなしで、小さい心づかひが出来ないこと、思ひやがないとあなたからしよつちゆう云はれること、精緻なところがまるでなく気まぐれなこと等々、悪いことばかりです。それにしても外の人は大ていA型やAB型なので、僕のO型は他の人々にも若干意外だったにちがひないが、結局「やはりさう云へば菊池さんはO型だな」と云ふ所に落ちつきました。

「雨、やまるどころか夕方から却つてひどくなり、地下鉄も帝都、小田急ともに混雑するし水つばいし、憂鬱なことでした。殊に経堂の駅から家までの道は、輔装（補助）はしてゐるとはいへ、田舎らしくあちこちに水たまりがあつて、幾度もその中へふみ込まねばならず、足はぐしよ〜になりました。帰つてコンロの火を起すのにまた大いに苦労するし、雨は全くいやになります。

その代りピアノを叩くには、雨の方が気が向きます。どう云ふ関係かしらないが。ここでは女の子達、歌が好きらしいが、白田嬢は胸が悪くて唄へないし、古田嬢も声が悪いと称して、楽譜はしきりに見るし歌のためにドイツ語を勉強したいなど云つてゐるくせに、ちつとも唄はない、併し唄はよく知つてゐるやうです。足立嬢は時々「乙女の祈り」を弾いてくれと云ふので弾いてやるが、本人は一向うたはない。もう一人の全くおとなしい坂巻嬢と云ふのは、いつも一番早く（八時少しすぎ）来るので、大てい僕の練習中やつてくるわけだが、楽譜を見るくらいで一向顕著な反応はない。男共に全然反応なし。かくしてピアノは専ら人の出て来ない時間、または帰つたあとの時間の、僕一人の楽しみにすぎない。いつかはあなたにきかせるつもりで、せいぜい練習しておきませう。

十月六日（金）雨。

今日もびしょ〜と雨脚弱らず、下の部屋は暗いし寒いしで、おひるには殆ど全員二階の僕の部屋へ集まります。ラジオをきく者、ねころぶもの、僕の本棚を検閲する者、アミ物をする者、そして一番明るい所へ坐りこんで、僕と八木君

とが毎日おきまりの将棋二番をやりませう。僕が飛車、角を落して、即ち二枚落ちでやるのですが、大い的一对一で彼はくやしがりませう。今日も戦ひ佳境に入つて夢中になつた所へ、ひよつこりと見たことのある顔がは入つて来ませう。おやつと思つたら、竹中君なませう。何だかまるで一瞬間、現実感の喪失が起りました。ちよつとゆうれいがあらはれた感じだせう。話は簡単で、彼も結局教育召集だつたので、三ヶ月経つて約束通り召集解除になつて、昨夜朝鮮から帰りつただけなせう。彼のお母さんは毎夜、夜半に清之助が帰つて来さうな気がして、眠れないのだと云つてゐたが、昨夜こそはそれが當つたわけだせう。つもる話も朗らかに、間もなく彼は本室へあいさつに行きました。そのあと、二番とも接戦の末、八木君に将棋を負けました。八木君の凱歌は実に嬉しうでせう。

あなたのお手紙、十月二日附と三日附と二通受取りました。どうも有難う。僕はこの頃の手紙がつまらないとのことですが、之は僕の日記代りですから、精神的スランプならスランプとして、やはり毎日書かねばならない。そのつもりで読んで下さい。

スランプの原因について考へてみました。すると、極くあたりまへの結論が出て来ました。僕のスランプは大体三月下旬以後に始まり、今につづいてゐるのせう。三月中旬までの著述(プランテーション第二章まで)は苦しみなながらもほぼ予想通りに油がのつて進んだのに、疎開問題で一時中絶して、四月に第三章、五月に第四章を書いた時、全く油がのらないのを感じた。この時の苦しみはたしかにスランプの苦しみだつた。それ以来、あなたが疎開してからペンは全くすすまなくなつた。まるで今年の三月までの著述に精魂をつかひ果したかのやうに、気がちつともものび／＼と動かない。七月始めの新聞研究会での講演も、ダイヤモンド日報も、独立戦争も、まるで気が乗らず、自信をなくするやうなものしか書けない。生活の変化が一応落ちつく所へおちついて、仕事に向つて気が充実しつつあるのを感じるのに、ペンの方は一向油がのらない。こうしたスランプの原因とは、あなたと別にみると云ふこと、これより外にあり得ないのやつとわかつた。之はおざなりな結論でなく、ここ旬日、毎日スランプ感の中で、ピアノを叩いたり、詩を考へたりし乍ら、一体何が足りないのだらうと考へつづけて、やつと僕にはあなたとの生活情緒なしには、精神が活動出来ないのだとわかつたのせう。ピアノや詩はその生活情緒を人為的につくり出さうとする無意識の努力であり、あなたの手紙をほしがり、あなたへ毎日書くことだけやめないのも、同じ事情を意味してゐるのせう。

しかも今、小此木君の戦争史の原稿を読んで、非常に感心しつつ、大いに書きたい衝動を感じてゐるのに、まだどうにも独立戦争が書けないでゐるのせう。今の事情では、とにかくここで、あなたなしに書かねばならないのだから、結局

この状態を一方であなたをより身近かに感じる手段を考へつつ、他方で全努力を以てこの生活情緒の欠除(短)を克服して、何としても仕事に再起せねばならない。一つ真剣に努力してみませう。

あなたの手術の手紙は僕には大変興味深い。どうか続けて下さい。僕から一つ一つに返事が行かなくても、僕が自分の仕事のためにも、あなたの手紙の凡ゆる部分を貪つてゐることを忘れないで下さい。精神的エネルギーの源泉をあなたの中にもつてゐるのです。

おさつは今日は八百屋の配給で二本半来て甚だ喜んでゐたら、夜は小使さんからも千葉の「金時」を一かご貰ひました。之から少しづつは入るかも知れません。今、一貫目四円ださうです。この辺は「おいらん」しか出来ないさうで、まだ掘らない所が多く、八百屋の配給品も千葉のいもださうです。

白田嬢には明日、おいもをふかしておいてあげることにしませう。今朝は白田、古田両嬢が二階をテツテイ的に掃除してくれました。僕のお勝手もすつかりきれいになりました。僕がO型だとわかつたので、物の整理は彼女達が積極的をやつてくれるさうです。ちなみにここでは、西井君がA型、白田嬢がO型、古田君がA型です。八木君AB、足立君O、あとは皆A。

晶子へも和歌山へも、先月下旬に手紙は書きました。何か子供のものを送つてやらうと、都心へ出る度にさがしてゐるのです。ダイヤモンド日報の原稿料が入つたら送れるでせう。

プランティシヨンの数字があなたをそんなに悩ますのですか。数字への毛嫌ひを克服することは必要です。人間の現実生活で、数字を抜きにすることは出来ない。今ほとにかく早く通読してほしいから、数字はとぼしてくれるやうにと云ひますが、実際は数字を理解しないやうでは、僕の本の価値の大きい部分をあなたに理解してもらへないことになると思つて、相当がつかりしてゐます。数字があるために「読むのも嫌」とは、全く悲しい気持です。僕は毎日、あなたの感想を待つてゐるのに。

だが、そんなに苦になるのなら強ひはしません。注文はつけないから、せめて早く通読して下さい。若しそれも望めないなら、あなたの愛情へも失望するやうな気がします。あなたは普通の読者ではないことを忘れないやうに。僕の妻であり、僕の伴侶的理解者たるべきであり、僕の今その前でむなしくあがいてゐる新しい著述の精神的エネルギーの源泉たるべきなのを忘れないやうに。楽に読まうとする前に、その数字を僕があちらこちらから集めて来、計算し、書きうつし、考へ、そこから必要な判断をひき出し、或ひはまた再三校正し、さう云ふ風にして苦しんだその苦しみを一応考

へて下さい。そして嫌でも通読だけはして下さい。あなたの感想は、僕の新しい著述のエネルギーの不可欠な源泉なのです。僕のスランプからの脱却の槓杆だと思つて下さい。

こんな風な押しつけがましい書き方は、あなたの僕への愛情を冷却させるかも知れないとは思ひ乍らも、かう書かずに居られない気がします。それほどあなたの手紙のあの文句にはがっかりしました。お察し下さい。

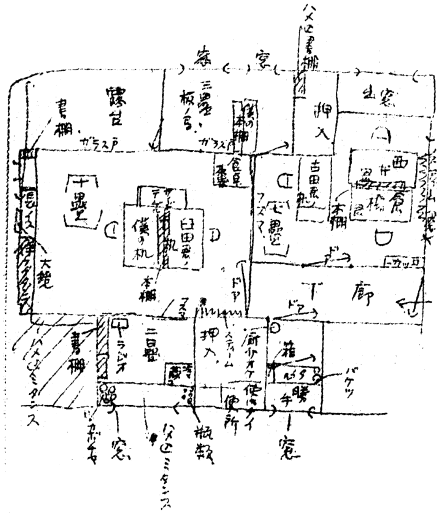
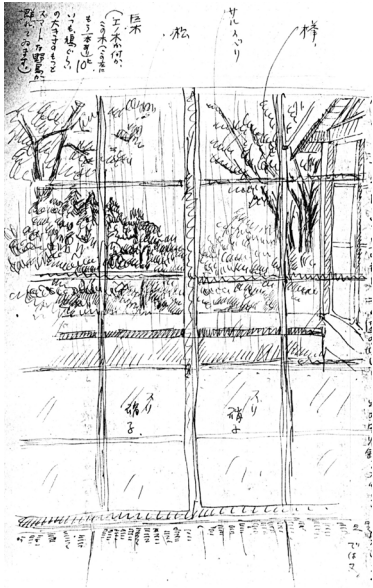
僕は信州へ行つて中学の先生になる用意に、全く苦手な数学の勉強も続けて居るのです。

雨はどうやら、夜も更けて、やまつたらしく、虫の音が強さを増しました。この数日の雨で、庭のケヤキがすっかり色づきました。参道の櫻も色づいたことでせう。竹中君の話では、彼等が帰されると入れかほりに、また二国（第二国民兵役―編者注）の召集兵が朝鮮に忽ち一杯になつたさうです。この櫻がどの程度になる時まで、ここにかうしてゐられることかと思ひます。それにつけてもあせるのは仕事のことです。

十月七日（土）雨。

昨夜は雑炊としじみ汁と柿とお茶とで、ずい分水つばい食事だつたせい（と）か、夜半に三度便所へ起きました。ここは便所が階下（階上の水洗式がこはれてゐるし、今はその隣の洗面所を僕のお勝手にしてゐるので、閉めきり、使ひません）で、そこまでに四回も電気のスイッチをひねり乍ら行くので、大分面（つ）つです。夜半から雨がまた降りつので来ましたが、朝にはドシヤぶりでした。こんな日は出て来る人に全く同情します。それでも女の子達四人は八時少しすぎにすつかり揃ひました。階上の二人にはおもいもふかし、西井君が珍らしくせきばらいなしに上つて来るまでに、掃除も何もすつかりすませました（湿気が多いとのどが引つかからないのでせう）。

ここでは下の八木、松村、谷川の三君は最初から出勤が早く、本室にゐた時でも宇賀君同様、人より半時間前に来てゐたものですが、こちらへ来てからは九時半の定刻より一時間早く、八時半にならぬ中に揃ふのです。僕がいつも九時半に一分もちがはない手品のやうな滑り込みを常習にしたことは、全く話題になるほどでした。今では西井君が割合遅くて、今日は九時頃に「とび切り早く」来て「半分ぐら（ら）いしか来てないだらう」と思つて来たたら、やつぱり全部そろつてゐたのに驚いてゐたくらいです。男連中の早いことは女連に恐慌を与へ、前述の坂巻君などは八時少しすぎに来るし、白田君も足立君も前は大分悠々と来てゐたが、谷川君の不興を招き庶務課長に報告され、本室で注意されるなどのいきさつがあつた後、全部早くなつて、八時前後にあらはれるに到りました。尤もこの分室は僕が住みこみで最も近いのを



筆頭に、古田君は経堂の駅のすぐ向ふでこゝまで歩いて十五分、坂巻君は千歳の方でやはり歩いて十分か十五分、八木、西井、白田三君は世田ヶ谷中原、代田、松原等で何れも三〇分以内、堀江君も池の上で三〇分以内、と云ふ風にすべてこの近辺で、遠いのは谷川君の目黒、足立君の赤坂、竹中君の恵美須ぐらゐのものです。だから経堂分室隣組は殆ど分室員のみで、その点好都合です。

西井君が来て、二階のモヨウガへをしました。月曜から倉橋君がこの歴史部へは入るのです。倉橋君と云ふのは西洋史の僕のクラスで、村瀬君等と友人であり、研究室の虫の一種に属したが、最近僕にこゝへ入れてくれと頼んで来たので、本田さんを通じて紹介し、この間今井先生が来た時、先生と一緒に理事及び局長に頼んだのですが、速かに決定して我々の所へ来るやうになつたのです。彼はイギリス経済史をやります。所で机のモヨウガへの結果、次の図の如くなりました。ざつとこんなぐあひ。西井君が狭い所へ引つこんだのは彼の小児病のせいです。竹中君が来るやうになれば、この分室は総勢十二人（小使ひ君は別）になつて中々有力ですが、西井君は野菜の配給分の減ることを大いにボヤいてゐます。その点は独り者の僕は余り切実ぢやありません。

雨は果てしなく降り続き、色づいた櫻が大やうに身をゆすぶつてゐます。机に坐つて左を向いた景色は次の図の如し。その中火鉢を入れませう。寒いのです。では又。



十月八日(日)晴、風。

一週間の雲を破つて秋の太陽が輝きわたつた日曜日。だが、その雲を吹き払つた夏の名残の颱風性の風は、昨夜からの荒れ続けをおさめやうともしません。

昨日の雨は盛んでした。息もつかず朝から夕方までエネルギーに降りつづけ、夜に入つて風が強くなつてから漸くやまつたのでした。今朝、庭の防空用に掘つてまだ水を入れてゐないプール(五間に三間)の底に(もうコンクリートで固めてはありますが)、一尺五寸近く雨水がたまつて、風で波立つてゐました。金木犀は金粉をふきちらしたやうに香と共に無残に散り、庭は落葉で大変です。栗が大分落ちてゐたので、少し拾つて朝食にたべました。あなたの五日付の手紙(8)は昨日配達されたのか、郵便受けの中でびつしよりぬれてゐましたが、幸ひ、中味のインクは散つてゐません。

「南部問題」の感想有難う。あの中であなながいろいろと質問してゐることについては、「プランテイション」の第三章、第四章の中でもつとくわしく説明してあるのです。「プランテイション」さへ読めば、この小さい短文は大ていわかるのです。ここでは読者が新聞人や経済人なので、新聞記事にあつたやうな現象を特にいろいろと拾ひあげ、それらの内容の説明は略して、それらの現象とアメリカ社会の基礎構造上の問題たる南部の問題とを、脈絡づけることに力を入れたのです。学問的労作たる「プランテイション」は現象よりも本質の開明(開明)に全力をつくし、ジャーナリスティックな解説記事としての「南部問題」では、本質についてよりも、現象間の關係を中心にしたと云へるでせう。その為、雑(雑)パク、粗雑になつたのです。だが、この小論が気の乗らない粗雑なものであることは、その形式上の性質のみによるのではなく、僕自身に原因がある。このことは前便で書いた通りです。実際、僕は、食事の仕度や軽い洗たくや身のまわりのことには別にあなたを必要としないが、精神の創造的な緊張を持続する為には、あなたなしにはやつて行けないのです。あなたが僕の労作に理解をもたず、充分協力的と云へない状態にあつて、その為僕が、あなたを自分の仕事の邪魔にしたのだが、実際は邪魔になつても居ることだけで、僕の労作の精神的エネルギーの源泉になつてゐたのです。さう云ふわけで、ダイヤモンド日報の原稿は粗雑だし、不出来で、何だかレモン(チケジ)のしぼりかすのやうなんです。だからあなたの感想は、甚だ不適當なほど好意的で、僕の心中若干ジクジク(チケジ)たるのです。

今朝は砂糖があるので、おいしいむしパンが食べられました。一日分の食糧としてムシパン(弁当箱)、カボチャ、クリ、オサツ、之だけ朝食の時作つてしまひました。節米です。



午前中、魔王の伴奏の練習をちよつとやりました。昨日は雨がひどくて女の子達が僕のピアノの時間（コンロの火の起るまでの約半時間）までぐずぐず帰らなくてゐたので、所望によつて「乙女の祈り」（之は若い子も、年の多いのも、皆が好きのやうです）を一曲やり、「ライエルマン」をちよつと教へ、「我が宿」をうたつてやりました。菩提樹は一通りひけるが、歌はれると忽ち指がうごかなくなるでせう。之はうたはなくても、伴奏だけでもキレイです。レコードできいてみてごらん下さい。

晴れたけれど快適な日とは云ひにくい。風が粗暴で、あちらこちらガタ／＼させて、気持を何となく不安なやうにさせ、昨日のさむさに引きくらべてむしあつい。昨日の昼間の気温は十六度くらいであつたのに、今は二十七度もあるのです。午後、独立戦争についての本を読んでゐたら、どうやら熱のあるらしいことを知り、気分が悪いのは天候のせいだけではないことがわかりました。七度四分あつて脈も早く、風邪か何かひいたのでせう。食欲も余りありません。余りだるいのでゴザをして寐ころびました。今日は電話の防空訓練日で、不要の電話をかけた者は、九日一日中電話を切られると新聞にあつたのに、午後三時頃電話のベルで下へ下りました。小使君は今日も尾久の家へ帰つて僕一人の留守番なのです。

電話は沢田君で、之から友人を一人つれてここへ来ると云ふので、ぢや待つてゐるよと云つて切りました。彼は、僕が火を起しかけてゐる所へ来ました。富山からのおみやげに、僕と貴女とに中々立派な夫婦茶碗（湯のみ）をくれました。あづきがかつたサビ朱色の地に銀色の竹の模様のあるふたつき湯のみ（九谷）です。之はその中送りませう。それから柿と林檎をくれたので、僕も、クリとおさつと柿とを二人に御馳走しました。五時前から十時半まで駄弁りしましたら、どうやら熱もひいたらしく、気分が悪いのもなほつたやうです。風もおさまりました。そのかはりまた時雨のやうな雨が来て、雨のやまつた後も空は雲でまつくらです。

十月九日（月）快晴。

東の空に二、三条の巻雲がたなびくだけで、他に一点の雲もない美事な快晴です。風もやみ、木々はよみがへつたやうに輝き、蜂や羽虫が嬉々と空中をとんでゐます。秋晴れは羽虫をさそひ出すだけでなく、研究所の虫共をも外光へさそひ出します。我々、期せずしてハイキングに行くことになり、僕もマメとカボチャとは入つた飯を弁当につめました。十一時に蘆花公園へ行くのです。ここから一時間かそこらでせう。

今朝お手紙と小包を受取りました。すばらしい里芋ですね。一緒にダイヤモンド日報も来たので急いで送ります。之で「南部問題」はおしまひです。えんりよのない感想を待ちます。

お手紙はいつも大いに興味深く拝見してゐます。せいぜい書いて下さい。

では帰つてから、また書きませう、夜にでも。

粉がたつぷり出来たので、ムシパンもおいしく（外の物をませなくて）出来ます。今朝などは実に上手に出来ておいしかった。どうも有難う。

### 幸子から謙一あて（一九四四年一月七日の記、八日の消印）

十月七日午後。

十月四日発「第四」信落手。

粉三〇〇匁、里芋三〇〇匁、郵便小包で発送致しました。多分十日頃にはとどくでせう。里芋よりスコトポテトと思ひましたが、あいにく今日は何処からも貰つてありません。

今日はあなたの手紙と同時に、和歌山のお母さんからと、利ちゃんから来ました。利ちゃんは千葉へ動員されるから、休暇に遊びに来る事が出来なくなつたとのこと、身体具合はどうなのでせう。寛ちちゃんにもまだ逢つてゐない様です。寛ちちゃんと云へば手紙も貰ひばなしですが、高円寺の新しい住所の封筒を失つて、返事が出せません。

和歌山のお母さん―あなたが返事出せとか何と云つたんでせう。嫌ね、あなたに唯さう云つた丈で、さい足してほしいつもりなんか無いのに。お母さんのお手紙見て、すぐさう思つたのよ。まだ歯医者も行つてない様だし、お父さんは神経痛で糖尿も起きて、おやせなすつたらしい。私にお金なんか返してくれるよりも、あちらにお見舞に送つて下さいな。お父さんが身体がわるくなつて、見まはりにあまり行けなかつたので、おさつのは出来はあまりよくない相です。私があるにそんな事を洩したのはいけないけど、あなたも子供見たいに、すぐさう云つてやつたりしては嫌よ。そんな事をする、あなたは私とは別で、急に向ふ側<sup>③</sup>へ行つてしまつた様な感じがして来ますから。唯普通に聞いて居てくれ、ばいばいのよ。私だつて不満の形で云つたんぢやないんです。

黒モンペは大きすぎたらしいのね。外出用にはならないかしら。其中、木棉<sup>④</sup>でモンペ下を作ります。それから毛メリ

ヤスのシャツやズボン下のこと、どうなつてゐますか。こちらにはもうありませんから、そちらにあるのかしら？ 皆こちらに持つて来てゐた様に思ふんだけれど。つい手の時、知らせて下さい。コウト（スプリング）はそちらですわね。灰いろのチョッキ（すこし短い）御入用なら送ります。あなたのところには毛糸類の下着は外にはなかつたでせう。

ごま塩はごまが全くありませんので、其中貰ふか買へるかしたら、作つて送らせてあげよう。田舎も実に不自由になつて来ました。疎解者<sup>（疎）</sup>の不心得者がね段を乱したので、目茶くくに田舎の経済もこはされてゆきます。ある物も全く影をひそめ、知り合関係へは売らず、都会からの疎解者へ渡ります。疎解者にもピンからキリまでありますから、金持でない疎解者は実にみじめな生活になります。野菜だつて魚だつて東京の様な配給制は全くないも同然です。

今日も凄く風が吹きます。今まで早苗のおもり。早苗は時々思ひ出した様に

“どうしておばちゃん、東ちようへ帰らんの？”

“もうお家がないもんで”

“どうして菊池叔父ちゃんは来んの？”

“御用があるから”

“ふーん、誰とあちよんどるの？”

“他所のおぢさんやお姉ちゃん”

“もう、来んの？”

“戦争すめば来るわ”

“戦争すめば、お砂糖も来らなア”

と云ふ、何時もきまつたお砂糖問答が始まります。“子供でも不思議に思ふんだね”とお母さんたちも笑ひます。ダイヤモンド日報は六は来てゐませんでした。これで七までそろつたのです。全部そろつてから読みませう。

#### 南部プランテーション 第四節

○わからないところは全体として全くなかつた様に思ひます。

但し表は難物。表19Aはよくわかりません。数字をどう見てよいのか。19表のプランテーション数、パーセンテージ一〇〇・〇なのに、次が三九・〇七三、次が三九八・九〇五なんて、なんの事だか一寸もわかりませう。

だから次の表へそのまゝ移ると、これ又、わかる様な、わからぬ様なです。Cはわかります。(これを書いてゐる中、風で電灯が消えたりついたり)。C表だと、地主農場と小作農場の比率もわかりやすい。P.140のプランテーション分布表は、これはわかります。

要するに、一九三四年のセンサスによつて、「奴隷に代るクロッパ―によつて、相変らず昔日のブラックベルトはプランテーションの中心になつてゐる」ことを立証してゐるのですね。

㊦ ウーフターとブレネンの調査定義によつて、プランテーションの基本労働力たるクロッパ―の特質がよくわかります。クロッパ―つて、どんなものだらうと思つてゐましたのに、よくわかつた。クロッパ―の大多数は黒人であることも。

森井さんの病気は如何ですか。森井さんて黒のベルベットの洋服を着た、蒼白い肉づきの良い娘さんだつたせう。ちがふかしら。ジェニイ・ゲルハールの様な感じの人でせう。森井さんたちは今は何の勉強ですか。矢張りあなたの南部問題の勉強ですか。あなたはお弟子がゐるから羨やましいわ。私も一諸に勉強し乍ら話し合へる仲間がゐたらとつくづく思ひます。一人ではどうも張合がないもの。前の鉄工聯時代がなつかしい位です。気の合つた勉強仲まの結びつきはまぢり気なしの愛情です。長くつづくものですが、現在、一諸で毎日のことを話し合つたり出来ないのは淋しい。其の点、あなたはしあはせね。

上田さんや西井さんたちは元気ですか。調査会も私の知らない人ばかりになりますね。竹中さんからは便りがあるの？ 何処にゐるのせう。小林庄一さんは上海ですか。

伊藤新一さん、家の件はもうよいのかしら。今日、役場の本庄さんが家があるがーまだ入用かときいて来ました。

又早苗ちゃん遊びに来ました。もうねむつたかと思つたのに(九時すこし前)。白いねまきに赤いチャンチャンコ。こんなお顔をして机のわきにチヨコンと座つてゐます。これからそろそろおいたを始めるのせう。では、さようなら。

十月七・夜

幸子

謙一様





りとする（簡単な図は省略―編者注）。

この患者は始めの診断では一ヶ所位であつたが、切つてみたら、あちらこちら始<sup>⑤</sup>んどわるいらしく、骨をメスの柄でたたくとカサ／＼と枯れた音がする。あらゆる肋骨を結核菌がむしばんでしまった。

その他、ホーセン状菌もおびただしくあつて、奥へ／＼と巣くつてゐた事がわかりました。ホーセン状菌は恐ろしいです。菌のわるい人は決して路ばたの草でほち<sup>⑥</sup>つてはいけません。

この人はもつと／＼切らねばならぬけれど、貧血でもあるし、長い病気で抵抗力がないから、三本位で一まづ縫合しました。

十月十日

今日は大人のヘルニアの手術、兵隊にゆくから急いでゐる。もつと早くしておけばよいのにね。盲腸、ヘルニアはかんたんですが、カリエスは長くて恐ろしいです。カリエスにはなりたくないものです。あの手術をみてから、どうもねむると自分のろく骨が気になつて、目がさめると必ずさわつてみたくなります。

四、五日前、島谷さんから手紙ありました。あなたの住所と近況を知らせておきました<sup>※</sup>。

いそがしいのに中々の勉強家だし、いい人です。ひるでも来るといんだけど、仕事を持つてゐるから夜ばかりで、ゆつくり話をする暇がありません。折角、いい話相手が出来たと思つたのに。スターキング・デリシヤスを持つて来てくれました。自分の畑で作つたのです。

昨日またオニールの奇妙な幕ま狂言をよみました。古い改造で小林多喜二の日記をよみ、中々おもしろかつた。では今日はこれで。

十月十日

幸子

御無沙汰してすみませんでした。

大掃除や手術が重なりまして、毎日疲れて日記も書かずねてしまつてゐました。従つて勉強も割当<sup>⑦</sup>どをりは何も致しませんでした。手紙はNo. 5、6、7まで、ダイヤモンド日報も11まで届いて居ります。

夜は早苗ちゃんがどうでも泊ると云つて、ふうちゃんを連れてゆかうとすると泣いて騒ぐので、二階の私の床でぬむる。おねしよをされぬためには夜中に三度程起きねばならず、睡眠不足でまぶたが凹む位になりました。早苗ちゃん、どうしたのかメーメおばちゃんの一点張りで、お風呂も食事もおしっこ、うんこ、皆私でなくては嫌だ〜と騒ぎますの。お勉強ちゆるのと云つて、二階に来てヴェラスケスばかり、もう廿度位も見たでせうか。まるで早苗ちゃんの専属子守になりました。私が病院の夜の手術でゆくときは、私の床の中に（七時前に）いれて、私のタオルのねまきをそばへ丸めていれてやると、それにまきついてねむつてしまひます。かうされると私もかわいくつて、勉強中でも早苗ちゃんがトーツと云つて、後からおどかし乍らまきついて来ると、もうベロ〜に甘くなつてしまひます。下でねむつた時は夜中に目をさますと、メーメおばちゃんとかへゆくと云つて、なんとだましても泣き止まず、二時ごろ一人で白いねまきのまゝ、バタ〜と暗い中を上つて来て、シヤクリ泣きし乍ら抱きついて来ます。私は死んだ子供がやつて来たのぢやないかしらと思ふ位です。

世田ヶ谷の朝夕、此のごろは至極明るい様です。柿や栗などあつて、すばらしくいいお家ね。それで冬が暖かだつたら本当に申分ないこと。ろ花園の遠足は如何でした。私も一度行つた事があります。栗の木が多いだけで、あまりたいたところではなかつたでせう。まはりの畑路のぬかつたところを、ハイヒールで困つた記憶が残つて居ります。病院の患者さんのと切れたつなぎの時間に、診察室で此のごろ臨床医学講座を読んでゐます。医者相手の講演を一ツ一ツ、パンフレットにまとめたものですが、しらうにも平易にわかる書き方で、医者常識がつかめる程度のもです。一冊が五〇ページ位で発行は昭和十一年です。八〇冊位あるでせうか。今までに読んだのは消毒法だの盗汗療法、治療食餌等です。

手術は盲腸、ヘルニアが一番多く、一番こたへたのは肋骨カリエスのであります。（別紙）

ダイアモンドの南部問題は昨夜十二時ごろ、全部通読致しました。「南部の政治勢力」と云ふものの起源発展が実によくわかりました。一寸考へれば、北部の金融資本家に政治的権力が握られ、アメリカ政治は彼等の意のまゝの如く考へ勝です。―独立戦争の後の不首尾は、単にそれ丈に終らず、二百何十年の後に至るまでの禍に発展したのです。さうして南北戦争の結果、南部の再建が失敗した事は、巨大な暗影を印したのですね。

⑨が一番興味深く読めました。ここは一番知り度いところであり、わかり易く一まとめになつてゐる。

⑩そして10はプランテーションで今までよんで来たところであり、南部が古いおくれた制度の上に立ち、さうして今、



それを維持するためとつてゐる手段が、全アメリカに大きな病源となつてゐることがわかります。

①でそれまでのが一まとめにされてゐて、ねむけと戦ひ乍らではありましたが、大変よくわかつた様です。書き方も中々親切で、一節づつの始めに前のがまとめであり、読者に好都合です。もう一度、ひるまのたつぷりした時間に通読します。

プランティシヨンの方は其の後すこしづつ乍ら順調に進んで来て居ります。あなたを大変失望させた数字、統計も何の事なく(?)卒業致しました。どうやら今まで私は、数字恐怖症と云ふ病氣にかかつてゐたものらしい。お化けの正体を正視出来ぬ様に、数字を見るともう恐い／＼の一点張りで、正視し得なかつたらしいです。半端な数字はチヨイと端しよつて、適当にしたりしてみたら、ちゃんときよくわかりましたの。と云つてもどの程度に理解したのかですが、案外さうやつてみたら、どの位の割になるか凡そわかつて来たたら、大変見やすく、次々に楽に進めました。

そちらのお嬢さん方には大分お世話になりますのね。元来女の人は一人者の男の人に、さう云ふ親切をしたがるものですね。母性愛(?)的なものを満足させるのでせうね。男やもめはうちが湧く相ですから、お勝手など、時々整理して貰ふと好都合ですね。

私は此のごろ掃除や炊事がますます嫌ひになりました。お母さんのメソッドで何でもしなくてはいけないから、詰らなくなるのでせう。

外は朝夕異つた美しさですし、おさつや林檎がたくさんあつてすてきです。あなたもピアノを弾いたりして楽しさうで結構だわ。環境は幸福でスランプなど吹きとばせさうでせう。たつぷり御勉強なさいませ。

さよなら

十三・夜

幸子

太郎のお骨はどうなりましたかしら。そこにあつて邪まなら、こちらにいただきたいけれど。

※ここより前の手紙文は「3」のページ番号をふつた三枚目の用箋に、ここより後の文は同じ三枚目の裏面に記されていて、その裏面には「6」のページ番号がふられていた。後掲の謙一発一〇月一五日の手紙も指摘するように、この前後で文章がつながっておらず、あるいは「4」「5」ページが表裏になった、四枚目の用箋が欠落しているのかも知れない。